



弘前市Well-being地域共創プロジェクト  
(弘前版PFS/SIBモデル事業)

テーマ①「検討過程における課題と対応策など」

① 検討過程における課題と対応策

- ▶ よく言われるのが...  
提供サービスが多種多様であるが故に、**ステークホルダー（関係者）が多い！**  
中間支援組織による事業遂行が大変では？



- ▶ 正直、検討過程において、簡単ではないときも...様々なアイデア、意見が

## 研究体制 多種多様な連携による強固な地域共創推進体制

【地域共創の場】多種多様な連携による強固な地域共創推進体制

産・学・官・金・民の強固な連携で、強靭なオープンイノベーション共創体制を構築



well-beingな地域社会モデルの実現  
のためには、多様な企業(大手有力企業  
や地元企業、ベンチャー企業等)、大学・  
研究機関、弘前市、青森県をはじめとする  
地方自治体、医師会などの関係機関、  
健康リーダーや食生活改善推進員など  
の市民、高校生や大学生といった若い  
世代等、多種多様なステークホルダー  
の連携が成功の鍵となり、本拠点ではこ  
の連携を実現してきました。これまでに  
国内大手ヘルスケア企業を含む多種多  
様な企業、大学や国立研究開発法人を  
含む多数の機関がプロジェクトに参画  
し、組織の壁を超えた多角的、多層的な  
マルチ連携で強靭なオープンイノベー  
ションを構築しています。

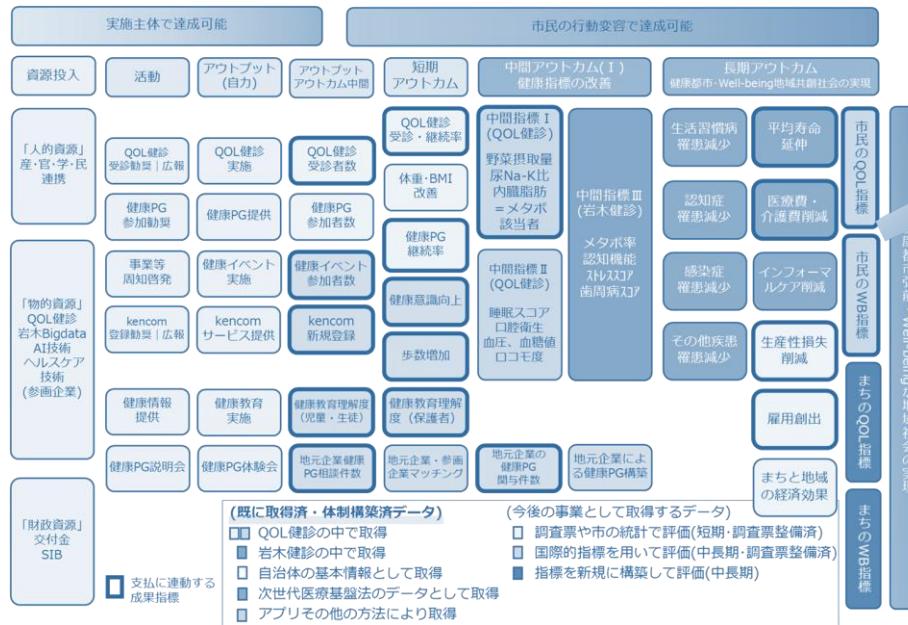


**HIROSAKI  
COI-NEXT**  
The Center of Well-being  
Regional Society Innovation

プロジェクトの実施機関「健康未来イノベーション研究機構」のとともに、岩木健康増進プロジェクト健診等の推進によりソーシャルキャピタル基盤を支える「健康未来イノベーションセンター」、実世界とサイバースペースの相互連携によるデータ駆動型の社会変革研究を推進する「健康・医療データサイエンス研究センター」、統合アリール・ワールド、データを駆使して未病研究とデータ駆動型の研究を産学連携で推進する「バイオメディカルリサーチセンター」の3つのセンターを備えています。「健康未来イノベーション研究機構」では、毎月1度、全ての参画機関が出席する「健康未来共創会議」を開催し、拠点の運営方針やプロジェクト推進の戦略等を決定しています。

弘前大学COI-NEXTパンフレット8頁の一部を引用  
(<https://coi.hirosaki-u.ac.jp/>)

- ▶ しかし、それは...デメリットではなく、『メリット』です  
COI-NEXTの枠組みで、みんなで案件形成しました(^^)v



# 長期アウトカム 健康都市弘前・Well-being地域共創社会の実現

## 平均寿命延伸

## 市民のQOL指標

## 社会保障費削減

## 市民のWB指標

※ : 支払に連動する成果指標

## 長期アウトカムに当たる成果指標も支払に連動！

② 今後PFS事業に期待すること

